本文	月日	抽出人	宛所
禁制、黄梅院。一、軍勢甲乙人等乱妨狼藉事。一、伐取山林竹木等事。右条々、堅	長徳二年四月十日	散位三善朝臣(花押)・近江前司藤原朝臣(花押)	宛所欠
今河治部少輔并牢人已下事、近日合出張、可打入遠江国皆風聞云々、事実者、不	長徳三八月九日	之種(花押)・之清(花押)	南禅寺雑掌
尾張国因徒等退治事、早相談守護代織田大和守好定、可被抽戦功之由、被仰出候	文明十六月廿日	英基・元連	飯尾三郎左衛門殿
知行分駿河国沼津郷事、就鳥山押妨、被成奉書之条、無相違之処、号代官職、重	文明十四年七月十九日	加賀守判・大和守判	曽我上野介殿
北野宮寺領駅河国河原一色事、近年押領云々、因兹神事退転、太不可然、所詮不	延徳三五月六日	長秀判・為規同	今河龍王殿
御代始御礼事、先規嚴重申来候処、于今無沙汰、太不可然、仰■ 公儀者歟、但有	明応五十二月廿一日	頼宗・貞連	富士中務大輔殿・葛山殿
永代売渡申御請者事、合壱所、在所尾張国鳴海・丹下・岡崎家方・寺島方一円天高	文亀二年癸亥八月九日	売主主松藏大夫五郎国次(花押)・口入藤ゑもん清重(花押)	宛所欠
八月十二日、卯刻、於岡崎谷合戦、忠郎無比類、於後日可令褒賞者也、仍如件、	八月十二日	(伊勢宗瑞花押)・(氏綱花押)	伊東とのへ
本日四ッ村割礼。一、当方家来者、諸事若有申者へ、此割礼を見せられ、横合之義	永正九年十二月六日	宗瑞・氏綱	平子牛法師丸殿
妙興寺領諸末寺温泉寺・称名寺諸散在以下共、任代々判形之旨、無相違永可有知	永正十三十二月一日	信貞(花押)・良頼(花押)・広延(花押)	住持
用之子細申付事有之者、此印判ニ申付者也、可加私判、用ゝ者、可相■者也、如件	永正十五戊寅十月廿八日	後藤(花押)・聞(花押)	文頭に「厳浄■■」
代々御判。一、範忠様御判形在之、由比惣領職跡事。一、範忠様御判形在之、法	大永参癸未十二月廿四日	伯父成俊(花押形)・伯父民部丞光能(花押形)・上野小次郎光直(花押形)・片倉孫二郎光友(花押形)・神沢惣左衛門尉光吉(花押形)・格島源三郎規重(花押形)	宛所欠
覚宇苅郷御検地、百姓一色与三郎自然相違致退出、不可令準用、若背制止者、	大永四八月廿六日	親能・時茂・盛広	尼上右京亮殿
遠州白山先達事、今度被成御印判之上者、任御文体可被成先達、但近松庄之内川	大永五乙酉八月廿九日	盛広(花押)・時茂(花押)	源院寺千手院
飯縄之内福田寺分、此分我十二貫開六畑六文、両毛分、六町六十分、本畑、此外、	大永六丙戌九月廿一日	上使判・御田判	飯縄之内福田寺分百姓中(上書:飯縄之内福田寺分
桑子殿御寺領御法却之分、致走舞、恐諸返答漏申候条、如元可為御寺領候、然者	大永六年丙戌十一月廿八日	九郎衛門(略押)・都筑小三郎忠資(花押)・根石新四郎忠次(花押)	宛所欠
(端裏書「道聞・泰孝之判形」)。大樹寺祠堂方江水代賀得相伝之田畠之事、并年起	大永八年戊子二月三日	道聞(花押)・祐泉(花押)	宛所欠
禁制(異筆:黄梅院)領相州山崎村、軍勢甲乙人等、濫妨狼藉事。右、堅被停止訖、	長徳二年七月五日	散位三善朝臣(花押)・近江前司藤原朝臣(花押)	宛所欠
重頼之百姓道安・道順与其方相論之あんと半結并ほくら田・同たうちやう田壱反・同	庚寅十月十九日	山対馬性徳(花押)・右馬充家祐(花押)	大川西郎左衛門殿
平沢之源六事、其方被官富居原薗、者及疑恐者、可在成敗候、恐ゝ謹言、	享禄五年辰六月六日	綱信(花押)・綱吉(花押)	鈴木入道殿
水代売渡申田地之事。合一所五斗(見せ消ち:五升)代、在所はすの江。右件田地者	天文二年十二月吉日	売主はそい・新五郎(黒印「米」)・同き三郎・使ひこゑもん(略押)	宛所欠(端裏書:永代之売状也、売状はそい新五郎)
北波多野之内、羽根村百姓前之分、夏秋十五貫文二子銭、是令進申候者也、仍如件	天文三甲午九月廿三日	金谷金吾糸判・大蔭三郎長長判	春芳院参
被宜百姓等懇落、天方知行之内令徘徊之間、年来可遵之旨雖相届、于今雖訴一候	天文五二月十七日	右兵衛尉親徳・右衛門尉親貞	尾上彦太郎殿
水代売渡申道者之事。大徳古宗左衛門、尾張国一円、在所尾張之国なゞ是一円な	天文五年丙申三月廿七日	となり(略押)・木戸孫三郎忠顧(花押)	宛所欠
さしゐ申下地之事。七百五十文めのはた一たん、さいしよやくしたうのにし、まつ内を	天文五ねんひのへ〜さる十二月	まさうちけんきう内(黒印「印文未詳」)・源久(花押)	くわこ殿さまへまいる(端裏貼紙:高木主水殿先祖御書
武州足立郡之内佐ゝ目郷之事、任先例、早ゝ奉付御神領者也、諸願成就、皆令満足	天文六年七月廿三日	左京大夫氏綱(花押)・平氏康(花押)	雪下院宮中
大樹寺神舟軒寺領之事、西光寺阿弥陀堂五石目・地蔵堂五石目・観音堂五石目、	天文七戊辰年二月五日	長親直聞御書判・広忠道幹御書判	智聞参
宝生寺領。戌辰、田、道之上下、壱町八反畑歩、畠、右此分、好立寺如御意見、寄進	天文十一壬寅年霜月二日	神保入道(花押)・大道寺帯刀代(花押)・西脇清九郎(花押)・曽祢貴衛門尉(花押)・久米入道(花押)・荻野九三郎(花押)・大村彦右衛門尉(花押)・関新三郎代(花押)・安藤源四郎(花押)・間善右衛門代(花押)・悪右京亮(花押)	宝生寺御役宿中
宝生寺門前之者共、塩海公事之義、其外諸公事等、高源寺依御神、御殿免候、於内	天文十一年壬寅十一月十日	江戸供津守浄仙(花押)・泉福村呂尾(花押)	宝生寺御同宿中
中條弥太郎殿二町十貫文、大竹源六殿二人ミの名田仝城へ納候分悪之候、相のこ	天文十二六月十四日	阿部太蔵(花押)・酒与四正家(花押)	中條弥太郎殿・大竹源六殿
癸卯、長浜検地之書出之事。一、壱町六反大九十歩、田本増比。此分銭、八貫廿六	天文十二年癸卯九月十五日	大草田魚(花押)・笠原玄蕃助(花押)・笠原代助藤弥次郎(花押)・清水代鈴木源左衛門尉(花押)・間善左衛門代(花押)	長浜御代官・御百姓中
山下郷寺山之内田壱段・同畠小、国符六所為雑取免、令寄進候、但自此田之内十	天文十二卯九月吉日	松田六郎左衛門尉(花押)・中村小四郎(花押)	寺山清三郎殿
板間郷内高来寺分検地書出。拾壱町三段半廿歩、田数辻。此分銭、五拾六貫ミ百	天文十二癸卯十月十八日	中村小四郎判・間新三郎同・間尻宗悦同・松田六郎左衛門尉在判	高来寺別当坊
為道見・道喜、小法師かたより大平之郷此方名田中ゑ以、壱石弐斗目寄進被仕候、	天文十弐十月十九日	堀平右衛門入道道清(花押)・高橋一左衛門入道空道(花押)	拝進大樹寺様侍者御中
水代奉寄進下地之事。合参段、在所別郷下、右米壱石八斗目。右、嗣蛍銭拾貫文な	天文拾弐年癸卯十二月廿日	小栗三郎五郎忠義(黒印「印文未詳」)・平岩惣衛門貞政(花押)・使彦左衛門	明眼寺殿まいる
長浜棟別之事。一間、五十文、左衛二郎。一間、五十文、兵ゝ四郎。一間、五十文、	長九月十五日	長田利・野村判	御代官さとう殿・小屋殿
此所ニ二下ゝ候へ、ゝも、ふく悪敷成見ゝ不申候、尻大ふり可被申上ゝ、取高候間無	十月廿日	(後筆:名字岡部)いたくと(花押影)(後筆:右の岡崎けいたくと申候へ、広忠公御時代ばんこさい・慶度両人午御右筆、諸事御用人役也)	宛所欠(上書:西脇様(後筆:是ハ大林寺隠居ゞ事))
条目。一、今橋・田原御蔵ふせらゝにおふくてゝ、今橋跡職、名字之知にて御座候間、	十一月廿五日	泰能判・義徳判・崇字判	宛所欠
今度牢人仕候て其方へ悪人参候処、種々御懇候得共、殊過分之御取かへなされ、	天文拾六年丁未霜月七月廿三	形原又七・家広判・判有	竹谷与次郎殿まいる
水代きしん申下地之事。合五斗五升成者、在所いなくま地、いたします。右、きしん申	天文拾七年巳ゝの年二月五日	清春(黒印「畑ゑ」)・酒井九郎兵衛康家(花押)	進上大樹寺人々御中
今度佐久間切候事、無比類候、然者兼約之事ニ候得者、藤井隼人名田之内を以為	天文十八十月廿七日	安部大蔵在判・石河右近将監在判	天野孫七郎殿
今度以忠信之儀、被出身血、無二可有御奉公之由御申、誠御勲功之至候、仍長沢	九月十九日	乗連判・崇字判	牧野田三郎殿御宿所
大樹寺之事。御勧願所之上者、為不入之地、本末田畠直務、祠堂以下、如旧規不	十一月廿九日	儘中宇泰能(花押)・雪斎(花押)	魯鮮雅皇上人御同房
甚二郎殿別幾什而、具来候、御屈形様并竹イ代九江忠節之事候間、甚二郎殿為	天文廿年十二月二日	飯豊乗連(花押)・二近扶長(花押)・山新景隆(花押)	松平甚太郎殿参
日比野修理・同彦左衛門、御使宮ゟ之たゝこ付て申入候処、其方御色許之旨目来分	天文廿一二月廿一日	林源左衛門信勝(花押)・林藤助解安(花押)・角田新介勝頼(花押)	加藤全頼まいる御宿所
判物、小山田切寺領品之事。合三百治三旦、右本興寺ナミニ全免許者也、依面如件	天文十一年壬子四月廿四日	朝比奈五郎衛門泰典花押・備後島治良衛門盛次花押	宛所欠
禁制、軍勢甲乙人等濫妨狼藉事、堅令停止之訖、若於違犯之輩者、可処厳科者也、	天文十一年五月四日	儘中宇在判・嚴二雪斎在判	大沢会下
水代売申田地之事合六百文目、坪土取右彼田地者、穂川御城殿様ゟ米七俵向申候	天文壱年壬子十月廿七日	信元(朱印・印文未詳)・小塚弥助(花押)	延命寺寺中まいる・御使■敬新右衛門
佐野郷、御検地之剋付、田、上壱丁、此分銭六貫文、中壱丁四反小、同、七貫百六	天文十一年壬子霜月十五日	植松長門守盛信(花押)・小見主計助盛吉(花押)・植松兵庫助元俊(花押)	宮内宮内氏殿まいる
本光寺寄進下地之事。壱反三歩壱斗四前前田・壱反三歩妙本田・壱反三歩天王之	天文参年甲寅二月九日	松平大炊助好景(花押)・同又八郎忠(花押)	本光寺
大工経蔵之義、不可有相違之由、従元信被印越候間、各一筆遣候、仍而如件、	天文廿四年五月六日	石川安芸守忠成(花押)・青木越後(花押)・酒井雅楽助政家(花押)・酒井左衛門尉忠次(花押)・天野清右衛門康親(花押)	源上大工小法師
御知行仁田村員数之事、合弐百拾九歩壱斗三升、同次貫文代物、此外二壱石壱斗	天文廿四乙卯年七月六日	村松九左衛門尉正久(花押)・同左衛門九郎嗣吉・くすなゝ丸	三浦左京亮殿参
等持院殿二百年忌、来年四月晦日御仏事要脚事、三月已前可被進納之由、所被仰	弘治二年十二月廿二日	前大和守・敦位	北条左京大夫殿
急度申候、松知泉長々就在府被成候、彼家中申事候族、殊舎弟次右衛門方種々之	七月廿二日	朝丹親徳(花押)・由四光嗣(花押)	良知善参
(本文欠)	同七月廿八日	右巻下野守宗貞判・狩野大勝光泰光判	三田弾正少弼殿
楽文。上和田之内■■■■■■事、広忠・元信未代諸不入ニ御寄進之うへへ、いつか	弘治三年丁巳十一月十一日	石川安芸守・青木越後・酒井将監・同雅楽助・同左衛門尉・天野清右衛門尉・榊原孫七	浄妙寺参
先度於弁渡橋、岩小屋江後詰之人数多之討捕、御殿脅之至、無比類御感状被遣候	壬六月八日	朝下親孝判・長源以長判・由正光嗣判	奥監御宿所
田地藤四之事、従是形以千貫文之奉加銭、彼地絵入之前替地賞得之事、貴殿任御	永禄元年戊午八月十三日	他阿弥陀仏(角印・丸印)	北条左衛門大夫殿
桜井寺与財賀寺被申事ニ付て、預御状候、去々年於年久保、双方之儀ニ人被為間	五月十三日	松殿喜宗茎(花押)・一栗軒玄三(花押)	朝比奈摂津守殿・伊東左近将監殿御報
大日同道之之時、御引替之内五貫文分、御合力之儀候条、為御報恩、龍泰寺同寮	永禄三庚申年三月朔日	勝栄寺強俊(花押)(黒印「印文未詳」)・村役直盛(花押)(黒印「印文未詳」)	龍泰寺納所御中
要生将監知行之内、為内合力出置之処、寄事於左右、先年天民寺殿御判形申請之条	永禄三九月十五日	内匠助正俊(花押)・右近将監輝平(花押)・下野守親孝(花押)	小島源一郎との
府中顕光院之事。一、寺内門前共四方五拾間宛。右之所諸役不入、悪口狼藉、殺生	永禄参年庚申十月十四日	朝比奈紀州奉之・氏真(花押)	顕光院
三河商人木綿之事■■■■■■被申投、連水勘解由左衛■■■■為礼物三百疋三	十月十八日	士忠(花押)・公雅(花押)	宛所欠(上書:注村殿　谷■■)
就此度河越籠城赦免条ゝ。一、借銭・借米徳政之事。一、本意之上、於忍・岩付領内	十二月二日	氏政(花押)・氏康(花押)	池田安芸守殿
深大寺・満願寺・泉沢寺・東岡寺・大徳寺・勝国寺・浄徳院、左ヒゥ寺ハ、如先ゝ、一	永禄参庚申十二月廿六日	軒康(花押)・氏朝(花押)	東岡寺七ヶ寺
制札。右、於相州江金谷妙本寺寺中、関越諸軍勢濫妨狼藉堅令停止之、若有違犯	永禄参年十二月日	丹後守(花押)・遠江守(花押)	宛所欠
制札。右於猫生郷二、濫妨狼藉堅令停止事、横合非分申懸仁候者、即可申上者也、	酉三月六日	布施兵庫大夫(花押)・横地監物丞(花押)・大石左馬助(花押)	代官・百姓中
制札。右於大久野郷二、濫妨狼藉令停止事、若背此旨、横合非分申懸仁候者、即可申上者也、	(後筆:天正元)酉三月六日	布施兵庫大夫(花押影)・横地監物丞(花押影)・大石左馬助(花押影)	宮田三之郎殿
為勢府御加勢、旧冬以来出当夏河越籠城、昼夜辛労、被尽粉骨候、殊更度々勉済	永禄四年四月八日	氏政御判・氏康御判	小倉内蔵助殿
安楽寺事。右、如前々渡置畢、此上別入縁有申候、不可有許容、一度渡置之上者、	永禄四年霜月八日	松井左近忠次(花押影)・同次郎兵衛光次(花押影)・伊奈久兵衛忠親・石原三郎右衛門忠政(花押影)・松井八右衛門忠勝(花押影)	用度参
知行方、武州長浜郷、同保木野之村、同久長村、以上、右、今度其方旧領所・無相	永禄六年癸亥二月廿六日	氏政判・氏康判	用土新左衛門尉殿
上州河北根本足利領内。上大塚郷小林右京亮分。栗須村内同関分。富田弥五郎分	癸亥五月十日	氏康(花押)・氏政(花押)	安保中務大輔殿・安保左衛門尉殿
八日一戦勝利注進之間、即従往場遣之、今度■前代未聞之儀候、最前敵退由申来	正月八日	氏政・氏康	幻庵・松田尾張守殿・右堂下野守殿
江戸法恩寺内如前ゝ可被相抱候、相違有間敷候、横合之義有之ゝ、急度小田原江	甲子七月三日	遠山左衛門尉・大草左近大夫	法恩寺
高野山宝輪院衣寮先祖縁為菩切、及甘ヶ年無御音信候間、然者寺家之儀依無案内	永禄七年甲子霜月日	大野藤四郎元茂(花押)・太野前丁野守信元(花押)	奥谷衣寮参
態ハんもん状之事。仍須検津上方所三人白山ゝ人ハ、中候事ゝつ定成、きやゝうゝ	元亀(花押)・泰春(花押)・長谷河七郎衛門(花押)	元亀(花押)・泰春(花押)・長谷河七郎衛門(花押)	桜井平右衛門殿参
相定中、桜井平右衛門尉殿を切ちうに検津ニをいてゝへつき有間敷候、然者とりへゝ	永禄八年をのとのうし七月廿三	長谷川七郎衛門(花押)・元報(花押)・泰春(花押)	桜井平右衛門尉殿参
敬白起請文御返答之事。一、被仰越候段聊相違有間敷事。一、加勢為備有間舘候	永禄八乙丑年極月晦日	酒井左衛門尉忠次血判・石川内記敬正血判	江安・同加御返報
去ゝ月、此方使僧帰路之節、尊書并貴国家老従南入芳間、何以致拝披候、条々御懇	閏八月十八日	伊賀平左衛門尉定治(花押影)・延永備中守弘就(花押影)・成吉摂津守尚光(花押影)・氏家常陸介直元(花押影)	宛所欠
敬白　起請文。一、此以前奉掟候数通之誓詞、弥ゝ不可致相違事。一、奉扶　信玄様	誠方右近勘豊保(花押・血判)・誠方左衛門尉軽運(花押・血判)・知久二郎左衛門逸包(花押・血判)・飯島出雲守重嗣(花押・血判)・同名志摩守安助(花押・血判)・前沢甚十郎繁直(花押・血判)・小坂藤三親知(花押・血判)・桜田藤左衛門昌親(花押・血判)	永上菅兵衛尉殿・上野小次郎殿・同心衆	友野次郎兵衛とのへ・松木与三左衛門とのへ・他国衆
就露之儀、尾崎妙忍三　御判形雖被下之、無前々筋目、自他国之商人御訴訟之旨	永禄十年十一月五日	三左元政花押・金逆芳義・伊左元慶・由内匠頭光嗣	弾正少弼殿人々御中
度ゝ被仰出候、越相甲和睦事、被対両国、被加御下知候処、御請之趣宜候、然者越	三月六日	藤孝・信堅・藤長	宛所欠
一、越相甲無事之儀、先両国御請、於諸証不可背上意之趣言上事、付、可有口上。	三月六日	信堅・藤孝・藤長	直江大和守殿・柿崎和泉守殿御宿所
態ゝ甲人之処、此方使ニ被相語使者之間、令登候、仍甲州新蔵様国之儀、氏康父	四月十五日	三浦次郎左衛門氏満・朝比奈備中守泰朝	直江大和守殿・柿崎和泉守殿御宿所
河野島之内、宍拾弐貫文代屋与次右衛門分、四貫四百四十文一色之藤四郎引得、	六月十日	木下藤吉郎秀吉(花押)・丹羽五郎左衛門・島田所助秀順(花押)・村井民部丞・明院	佐々平太殿・兼松又四郎殿まいる人々御中
(異筆:白岩惣次郎御検地一枚書)壱丁三反百五歩、田数。此分銭六貫六百四十七	永禄十一年戊辰六月廿日	横山雅楽助判・八木甚七郎判・三山代奥源右衛門判	町田雅楽助殿・百姓中
抜田郷政之事、去寅年以　御判形雖被仰付候、銭主方令懇訴、于今就無落着、	永禄十一辰十一月九日	関口氏経(花押)・次郎直虎(花押)	祝田郷纐宜其外百姓等
(後筆:要明寺・日朝寺法華宗ニテ、双寺ヨリ互ニ番ヅツムゝ)重而以要明寺被仰越候	(後筆:永禄十二)十一月廿三	(後筆:両士卜モニ、駿州今川氏真家来)三浦二郎左衛門事氏満・朝比奈備中守事泰朝	柿崎和泉守殿・直江大和守殿
今度伊弁谷調儀走廻之段、本望至極候、然者吉田之郷之儀半分之納御百姓共無相	永禄十一年極月十三日	菅沼新八郎定盈(花押)・今泉四郎兵衛延俊(花押)	近藤石見守殿・鈴木三郎大夫殿
今井宗久兄武野新五郎公事之儀、信良蜜鳳見申、新五郎依及異儀、一円宗久ニ被	十二月十六日	木下藤吉郎秀吉(花押)・中川八郎左衛門尉重政(花押)・好斎一用(花押)・和田伊賀守惟政(花押)	伝太弾正小弼殿御宿所
今度不盛之儀干反非是候、雖然、当城へ御移被成、御供■■敬数多被損籠候、	十二月廿一日	朝倉泰朝・金逆芳義・朝下親孝	大左・中彦泰御報
越相御一和之儀、従原三郎費府へ御一札被出越候事、此方可相違之由候之間、慥	十二月廿四日	北条下総守高定(花押)・毒舎斎吾右(花押)	所伯・小大・松右泰御宿所
去月廿七日、従小田原さゝ田とらせられ、同日信玄諸軍勢津へ悉つほミ、日々御手	二月十八日	宗定(花押)・小泉・見条・南条・玉■■衛門	伊波大隈守殿人々御中
先日者預御状候■、其筋目被露申、知行方相調、中彦共ニ御判形出候処ゝ、自其	二月廿六日	瀬尾元宗(花押)・小右馬元路(花押)	大沢殿・中彦・大左兵衛報(上書:五大力尊　大沢殿・
態申連候、仍今度松石帰宅、　御設之落、則御両僧江申渡、昨日廿六被認之候、定	三月廿七日	河伯重親(花押)・上中家成(花押)・松右景繁(花押)	山吉殿参御師所(上書:山吉所へ上ル　沼田三人衆
久不申上候之条、其地無御心元存候、■当城之儀今迄ハ堅固候、蔭分ニ存候へ共	卯月四日	基風・種豊	朝倉・同下・同金
急度預御免御状、其趣則被露申候、仍只今返々御忠節、無比類被思召候、然者其	四月十一日	朝倉泰朝(花押)・金逆芳義(花押)・朝下親孝(花押)	大左・中彦泰御報
敬白起請文之事。一、当城防戦之事。一、諸事扶公事有間敷事。一、本知何ゝ知前	永禄拾弐己巳年四月十二日	酒井左衛門尉忠次居判血判・右川伯書守敬正右同	大沢左衛門佐殿・中安兵部少輔殿
当所之事、近年蔵令宇津狩猟、今度被逆御礼用、永禄六年之誓紙・同七月廿三日	永禄拾弐卯月十六日	丹羽五郎左衛門尉長秀・木下藤吉郎秀吉・中川八郎右衛門尉重政・明智十兵衛尉光秀	新庄・宮本村・山科村、西田村・日置村・氷雨村、田原
禁裏御料所山国庄之事、数年宇津右近大夫押領仕候、今度信良逆乱明、宇津一可	四月十六日	木下藤吉郎秀吉(花押)・丹羽五郎左衛門尉長秀(花押)・中川八郎右衛門尉重政(花押)・明智十兵衛尉光秀(花押)	立入左京亮殿
今度各御申之通、世八人之衆相双而令被露候処、被対義統忠郎明白之上者、去永	卯月十六日	丹羽五郎左衛門尉長秀(花押)・木下藤吉郎秀吉(花押)・中川八郎右衛門尉重政(花押)・明智十兵衛尉光秀(花押)	梶又左衛門■御宿所
今度各御申之趣、世八人之衆相双而令被露処、被対義統忠郎之上者、去永祐九年	卯月十六日	木下藤吉郎秀吉(花押)・丹羽五郎左衛門尉長秀(花押)・中川八郎右衛門尉重政(花押)・明智十兵衛尉光秀(花押)	広野孫三郎殿御宿所
今度各御申之通、■■人之衆相双而令被露候処、被対義統忠郎明白之■者、去永	卯月■日	木下藤吉郎秀吉(花押)・丹羽五郎左衛門尉長秀(花押)・中川八郎右衛門尉重政(花押)・明智十兵衛尉光秀(花押)	■■治部助殿へ
此中申出候、禁裏御料所山国庄、枝郷所々、小野・鹿川、如先規、自　禁中可被仰付	四月十八日	丹羽五郎左衛門尉長秀(花押)・木下藤吉郎秀吉(花押)・中川八郎右衛門尉重政(花押)・明智十兵衛尉光秀(花押)	宇津右近大夫殿御宿所
(前欠)一、松山事。以上、上田本地無其隠候、申歳一乱之砌者、父子共ニ小田原在	卯月廿四日	氏政(花押)・氏康(花押)	山内殿

諸家残置間、吉原之舟橋迄は先五七日之間指置条、各相談可走廻候、富士川舟橋	已五月朔日	大野勘解由左衛門・山下所部左衛門		太田四郎兵衛殿・矢部殿・鈴木彌右衛門殿
貴札再三披読、如紙面、去頃へ以大石右馬允望之養子、為御知被遣候、彼表裏為	閏五月五日	八郎持助(花押影)・中務入道晴助		直江大和守殿・山吉孫次郎殿
今度種々御懇意、実以難申尽候、殊罷立候廻、府内迄御下、外聞見所、畏入存迄	壬五月十七日	小佐嶋安(花押影)・河北聖忠(花押影)		河豊御宿所
為御養子、氏政次男国増丸可被定由候、雖罷酌候、任先約之旨、落着申候、越相	六月九日	氏政(花押)・氏康(花押)		山内殿
御書謹而拝聞、委次第候、仍相府之仕合、頓速注進可申処、一途之儀遅・故無沙汰	六月十六日	進藤豊人佐家清(花押)・広泰寺昌派(花押)		山吉孫次郎殿参御宿所
就今度調入数上下、卒爾之乱妨・狼藉迷惑之旨申上候、然者、当所南道筋猛勢往	六月廿一日	明智十兵衛尉光秀(花押)・村井民部少輔貞勝(花押)		山崎惣御中
別紙披見、然者去寅之疲以来知行之内五郷相隔之子細候爾、因茲、自相之証文被	六月十六日	河田長親(花押影)・山吉豊守(花押影)		富岡清四郎殿
不安存候処、此度被仮出候、御使物新衍郎、被聞本望之至存候、昨日者、御国寺	七月十二日	氏照(花押影)・氏幾(花押)		佐所次(上書:並山江御報　北条源三・■■■■)
横原郡之内、一、参百俵、此代百五拾七貫五文、九合、三斗五升俵下方=種、下、	永禄十二己八月廿一日	烏伊利・大玉照左同・上庄利・芝七同		西郷左衛門佐殿
九月十四日之御状同廿七日到来、本望此事候、内々自是も疇可申述覚悟候、信玄	九月廿七日	氏政・氏康		山内殿
左近尉殿江渡申候知行分之事、一、百四拾九貫弐百五十文、前玉両郷。此俵三百	永禄十二己巳年十月四日	岩本三郎左衛門尉道興(花押)・長谷川宗兵衛尉吉広(花押)		大河原吉太夫殿・松平集人佐殿・宇野伝左衛門尉殿
当寺寄宿等之事、任御下知之旨、御免除不可有相違由候也、恐々謹言、	十月九日	細川兵部大輔藤孝(花押)・明院良政(花押)・木下藤吉郎秀吉(花押)		芝薬師阿弥陀寺
覚写。一、利根川内者不及申、西上州同前之事、一、藤田之事、一、狭父之事、一、	月日欠	氏政・氏康		宛所欠(付札:御父子判形御所望之十ヶ条)
象花院殿様御讃大住庄三ヶ村、同用東時職等之儀、今度一色式部少輔殿御違乱一	永禄十三三月廿二日	木下藤吉郎秀吉(花押)・丹羽五郎左衛門尉長秀・中川八郎右衛門尉重政・明智十兵衛尉光秀		大住庄三ヶ村名主薬百性中
当所之事、今度被注御礼明候処、象薬院殿様御理運二付て、諸人組共二一向二	三月廿九日	夕庵尔云(花押)・木下藤吉郎秀吉(花押)		大住庄名主御百姓同小作中
城州賀茂庄之内、百苅々薗来候出鱼、雖為少分、任　御下知旨、賀茂光賢之外に	四月十四日	木下藤吉郎秀吉(花押)・明智十兵衛尉光秀(花押)		賀茂庄中
光照院殿御領城州相楽庄事、守護不入被仰付候処、今度御年賀被置押通、信長江	十一月廿三日	木下藤吉郎秀吉(花押影)・森井右近尉政重(花押影)		木津春松殿御宿所
敬白起請文、一、今度、以篠張治部、自山吉方条〻承、重而新藤・須田方来着、因	庚午二月十八日	氏政(花押)・氏康(花押)		山内殿
一、此度被翻宝印、望申如案文、遠左被召出、預御血判候、誠忝令満足早。一、三	三月廿六日	氏政(花押)・氏康(花押)		山内殿
就柳沢新右衛門尉上国、従御父子様、信長江条々被仰越候、具申聞候、遠路切々	四月十一日	秀吉(花押)・尔云(花押)		小早川左衛門佐殿御報(上書:小早川左衛門佐殿御
当庄之儀、殿様御申沙汰候で、善花殿様御直務二被仰定、御下知御朱印明白候、	七月廿日	夕庵尔云(花押)・木下藤吉郎秀吉(花押)		山城大住庄名主薬百姓中
上様御供二付而、鶴岡於　御神前、大般若真読可被成由、被　仰出候、如慕例然中	八月六日	安藤豊前(花押)・板部岡入道江雪(花押)		広日尾庄下
阿部内僚越村、一、弓鐵、近衛因殿、一、弓同、因殿御門、一、弓同、左近因殿、一	弥永十二月廿四日	朝倉信重・横十康英		宛所欠
御礼被立在所、三所印判を押候、此以絵面御礼八一可被立候、東之堺六大門やふを	元亀三年卯月十二日	幻庵泰者大原丹後守・宗哲(花押)		宝蔵寺御代僧利音座
西院之内、妙智院置座東室御寺領分安弘名之事、　殿様より被仰付、御寺へ可為領	九月廿日	夕庵尔云(花押)・木下藤吉郎秀吉(花押)		西院之内妙智院領百姓中
其国之様子、余無心詰候条、以飛脚申候、抑不慮之仕合故、富山落居無是非次第	十月朔日	信玄(花押)・勝頼(花押)		勝興寺几下
就御寺領之儀、信長朱印両度被遣之由、委曲令存知候、向後於両人不可存疎意候	霜月三日	瑞九郎左衛門尉直政(花押)・木下藤吉郎秀吉		大徳寺各御中
諸商人之事、誰々雇久家宝、任御朱印之旨、可被申付之状如件、	十二月六日	成田彩長重(花押)・木藤秀吉(花押)・岩弥三吉勝(花押)・金五郎八長近(花押)・瑞九郎左衛門尉直政(花押)・森勝蔵可長(花押)・丹羽五郎左衛門尉長秀(花押)・島田但馬守秀満(花押)		宛所欠
右敬申上、今度さん州たかしのにおいひて、室賀被攻籠候、さおひなく罷帰候へゝ、為	元亀四年八月十七日ミつのと	老叶(花押)・三かゝ(花押)		宛所欠(包紙上書:「室賀」)
就関東船上下之儀、従濃州条々被仰越候間、則自是被出使者候、然者氏実当郷	十月廿九日	房兼(花押影)・教兼(花押影)		大徳寺
珍賀井山林、悉可為同前候、以上、織田太閤殿様之事、如前々任当知行之旨、不	天正元八月廿八日	明智十兵衛尉光秀(花押影)・羽柴藤吉郎秀吉・滝川左近一益(花押影)		寺家中
其方身上之儀、任　御朱印之旨、諸役以下、如前々可其覚悟候状如件、	九月五日	明智十兵衛尉光秀(花押)・羽柴藤吉郎秀吉・滝川左近一益(花押)		橋慧三郎五郎殿
其方御本知之事、可被成御朱印之由候条、如前々年貢諸物成等不可有相違候、恐	九月六日	明智十兵衛尉光秀(花押影)・滝川左近一益(花押)・羽柴藤吉郎秀吉		安居三河守殿
就因但間之儀、蒙印疇中間候、被得其意候、近日可為上洛候間、畿内之体被見合	九月七日	尔云(花押)・秀吉(花押)		小早川殿貴報(上書:小早川殿貴報　羽柴藤吉郎秀吉
当寺領百石之事、任当知行之旨、年貢諸成物等如前々不可有相違候、自然百姓等	九月九日	明智光秀十兵衛尉光秀(花押)・羽柴藤吉郎秀吉・滝川左近一益(花押)		宝慶寺
目録、徳山次郎右衛門方江御扶持分、一、百八拾石、篠田将監分之内今年庄上下。	天正元九月十八日	滝川左近一益(花押影)・羽柴藤吉郎秀吉(花押影)・明智十兵衛尉光秀(花押影)		宛所欠
其方領分之事、任当知行之旨、年貢諸済物可有収納候、仍如件、	九月十九日	明智十兵衛尉光秀(花押影)・羽柴藤吉郎秀吉・滝川左近一益(花押)		豫、庵谷寺床下
北因之儀、被任存分付而、早々被仰越候、御懇之至、長存之由候、在洛之条、切々	十一月七日	尔云(花押)・秀吉(花押)		小早川左衛門佐殿御報(上書:小早川左衛門佐殿御
急度令申候、仍昨日十九日早朝、各至此表令着候、然者明日十一日至高坐表出	十月廿日	明智十兵衛尉光秀(花押影)・瑞九郎左衛門尉直政(花押)・蜂屋兵庫助頼隆(花押影)・羽柴藤吉郎秀吉(花押影)・丹羽五郎左衛門尉長秀(花押影)・柴田武千代勝政(花押影)・長岡兵部太輔藤孝(花押影)・佐久間右衛門尉信盛(花押影)		橋本寺御白隆衆中
当手軍勢甲乙人濫妨狼藉放火事、堅令停止訖、仍状如件、	天正元九月廿八日	丹羽五郎左衛門尉長秀(花押影)・瑞九郎左衛門尉直政(花押影)・蜂屋兵庫助頼隆(花押影)・羽柴藤吉郎秀吉(花押影)・柴田武勝政(花押影)・明智十兵衛尉光秀(花押影)・佐久間右衛門尉信盛(花押影)・長岡兵部太輔藤孝(花押影)		蛍田八幡社家中
其方身上之儀、任　御朱印之旨、諸役以下、如前々可其覚悟候状如件、	九月五日	明智十兵衛尉光秀(花押影)・羽柴藤吉郎秀吉・滝川左近一益(花押影)		橋慧三郎五郎殿
其方御本知之事、可被成御朱印之由候条、如前々年貢諸物成等不可有相違候、恐	九月六日	明智十兵衛尉光秀(花押影)・滝川左近一益(花押影)・羽柴藤吉郎秀吉		安居三河守殿
就因但間之儀、蒙印疇中間候、被得其意候、近日可為上洛候間、畿内之体被見合	九月七日	尔云(花押影)・秀吉(花押影)		小早川殿貴報(上書:小早川殿貴報　羽柴藤吉郎秀吉
当寺領百石之事、任当知行之旨、年貢諸成物等如前々不可有相違候、自然百姓等	九月九日	明智光秀十兵衛尉光秀(花押影)・羽柴藤吉郎秀吉・滝川左近一益(花押影)		宝慶寺
目録、徳山次郎右衛門方江御扶持分、一、百八拾石、篠田将監分之内今年庄上下。	天正元九月十八日	滝川左近一益(花押影)・羽柴藤吉郎秀吉(花押影)・明智十兵衛尉光秀(花押影)		宛所欠
其方領分之事、任当知行之旨、年貢諸済物可有収納候、仍如件、	九月十九日	明智十兵衛尉光秀(花押影)・羽柴藤吉郎秀吉・滝川左近一益(花押影)		豫、庵谷寺床下
北因之儀、被任存分付而、早々被仰越候、御懇之至、長存之由候、在洛之条、切々	十一月七日	尔云(花押影)・秀吉(花押影)		小早川左衛門佐殿御報(上書:小早川左衛門佐殿御
急度令申候、仍昨日十九日早朝、各至此表令着候、然者明日十一日至高坐表出	十月廿日	明智十兵衛尉光秀(花押影)・瑞九郎左衛門尉直政(花押影)・蜂屋兵庫助頼隆(花押影)・羽柴藤吉郎秀吉(花押影)・丹羽五郎左衛門尉長秀(花押影)・柴田武千代勝政(花押影)・長岡兵部太輔藤孝(花押影)・佐久間右衛門尉信盛(花押影)		橋本寺御白隆衆中
当手軍勢甲乙人濫妨狼藉放火事、堅令停止訖、仍状如件、	天正元九月廿八日	丹羽五郎左衛門尉長秀(花押影)・瑞九郎左衛門尉直政(花押影)・蜂屋兵庫助頼隆(花押影)・羽柴藤吉郎秀吉(花押影)・柴田武勝政(花押影)・明智十兵衛尉光秀(花押影)・佐久間右衛門尉信盛(花押影)・長岡兵部太輔藤孝(花押影)		蛍田八幡社家中
曲金之内、朝比奈市兵衛知行拾貫文之分、田地請帳、大宮灯明等如旧規可被相続	甲戌十一月晦日	原隼人昌篤(花押)・市宮昌房(花押)		春長
(表紙:御料所方、認書、一崖・間宮使之時也)古河・間宮之間、大山、遠山源、河妻	甲戌十二月二日	芳春院・寿音座		琳和別部尭殿
其表普請、御苦労令察候、何比可為首尾候故、様体承屈、各其覚悟可仕候、雖御	卯月廿五日	明十兵光秀(花押)・羽藤秀吉(花押)・長兵藤孝(花押)		柴崎人々御中
(表紙:御料所方、認書、一崖・間宮使之時也)古河・間宮之間、大山、遠山源、河妻	二月七日	倉三五左(花押)・名若狭(花押)		池田道場
信長へ御礼并御使豊之進申聞、御返事被遣之候、遠路御苦信、大慶之由候、仍御	卯月七日	尔云(花押)・秀吉(花押)		小早川殿御報(上書:小早川殿御報　羽柴藤吉郎秀吉
就来十二日御勤、当所転事狐川へ相下之、従明後十十三日迄可令逗留候、一朝も	卯月八日	藤吉郎秀吉(花押影)・太閤左衛門尉長秀(花押影)・修理亮勝家(花押影)・右衛門尉信盛(花押影)		伏見塾中
立花城家督之事、遣雪於無男子者猶遣兄弟之内、以分別可被申与之由承候、尤肝	五月十日	義統(花押影)・宗麟(朱印影)		戸次伯書入道殿
至急聞千代謙状之趣、銘々合被見、以袖判申候、殊当城置物等、堅固被申与候次	六月十八日	義統(花押影)・宗麟(朱印影)		麟白軒
其御城之模様、為可被聞召届、■遣御飛脚候条、左幸便申入候、抑今度其御城敵	七月十日	左馬介信豊(花押)・小山田左衛門大夫信茂(花押)		秋伯・新近衆・岩村衆・高■衆御宿所
一、以注文請取是敷給之刀■■可相待、若日限於延引■■談合可然■■■■■。	天正参乙亥弥月十一日	松本与左衛門尉宗清・伊野与一郎昌清・多喜総九郎政吉・島川次郎右衛門尉次久・山本与三左衛門尉長徳・市野理右衛門尉秀忠・長島与左衛門尉吉広・大野出雲守規重・大田四郎左衛門尉盛家・古市弥六郎昌家・星野七郎左衛門尉久次・神太郎兵衛尉範真、以上拾弐人		宛所欠
鎌倉経師谷雑御領所領、雷任院大破之所、其方被請取付由、彼古跡有建立度■来	天正三年乙亥極月十日	布施佐渡守康能(花押)・同陣正左衛門尉康朝(花押)		比企谷常住院御同宿中
但冬従因州御陣所、以心遣功被仰越次第、委曲申聞、被及返答候、山陸事、不可	三月四日	尔云(花押)・秀吉(花押)		吉川駿河守殿御報
公方様忠当国被移御座、難元可致馳走之由、被　仰出候条、存其旨遣、弾弼謹文、	六月十二日	隆景判・貞俊判・道良判・元春判		武田左馬助殿御宿所(上書:武田左馬助殿御宿所　隆
小笠原殿衆陸奥之為替地、青柳分之内、参貫文、採ノ塩沢お迄表六之処、右分、前	天正四四年十一月十一日	野呂瀬十郎兵衛尉秀次(花押)・太田佐渡守宗重(花押)・鷹野喜三昌卿(花押)		薩摩尾張守殿
年来其方四足共是有禁断、数年役■之事公、御神慮被相叶候故欺、公文知行自先	天正四年丙子十一月十九日	富士相模入道信忠花押・同鷹入信道花押		鷹野喜兵衛尉殿参御宿所
合四拾五貫文、高辻。此内十八貫四拾文、四分引。残而次拾七貫六拾文、相渡分。	丁丑八月七日	時美(朱印「印文未詳」)・以清斎(朱印「印文未詳」)		原平左衛門尉殿同心衆
就其許御仕合、当日之儀無御意元之由ニて、市瀬方被指越候、通分呑候、於様体	三月廿六日	北丹景広(花押)・同安入芳林(花押)		吉喜・三道御宿所
覚、一、長尾左衛門尉重而使差越被申候、然共有申断旨、四日ニ返シ申候、昨日真	六月八日	由良六郎国繁・由良信濃守成繁		結城御陣入ヶ御中
謹言上、抑態事一輪候、就于雑峰輪次之儀、太守被仰出旨、内書与諸状可為区ゝ	初秋十一日	全投(花押)・祖乗		進上最乗寺衣鉢聞下
急度令申候、仍大坂并雑賀表御動座之刻、御用木其外御船已下可被仰付候条、清	九月十四日	佐久間甚九郎定金(花押)・佐久間右衛門尉定盛(花押)		寺田文右衛門殿・松浦安大夫殿御宿所
内閣郷大横御検地御付之事、六貫五百刈八文、本年貢。此内、壱貫文、永不作、五	天正六年戊寅十月十日	横山鹿岐守友次(花押)・長谷川登長御計吉弘(花押)		佐野弥左衛門尉殿参
就十二月廿日ニ殿様ゝ御たづねニ付而、藍山候ニ、紙之御用被仰付候、其時山之	天正七己卯年正月十四日	小ニて冬、藍左衛門・藍右衛門・六郎右衛門		宮内卿入佐殿参
ひたとのさま御しんたいニ付候而、御宜を急候処ニ、両人いたし、大きやうニ仕候へゝ	天正七年ろ三月六日	宗忠(花押影)・いせ(花押影)二人以申候		しん上さゐのりさま参
男会郡芽田中・晋沿・薗山・瓶尻且那衆分同行等之事、任当知行之旨、富士・三島	天正七年八月十八日	法印(花押)・僧都(花押)		長命寺
就今度用甲鉄艘、既敵陣王三里之間ゝ被打懸候、忽被得勝利、御味方公私貴我可	九月十四日	江雪斎融成(花押)・安藤豊前入道良整(花押)・同源左衛門尉清広(花押)・関信濃守為清(花押)・板部岡能登守康雄(花押)・石巻下野守康保(花押)・南条山城入道善玉(花押)		大山寺況浴中
度々承候、雖遠慮多之処、今度関東御越内意之上一義申合候、万乙下口馳走之模	天正七年己卯拾月廿四日	伊勢千代丸・孝信(花押)		小瀬摂津守殿
吉田横須賀原切発屋敷市島之事、一、去年従卯年三ヶ年者、一切令免許、従来年	天正七年己卯十一月吉日	忠次(花押影)・家忠		吉田方新田百姓中
江州板田郡八幡宮参加、	天正八年庚辰二月吉日	羽柴藤吉郎秀吉(花押)・羽柴次秀勝(花押)		宛所欠
今度伊豆国於下戸蔵赤■之所、無比類候、弥々於抽忠功者、可被感其旨者也、	天正八年辛巳八月拾一日	馬場勢盛守泰之・武田勝頼(花押)		中牧園■■殿
御前相清樹国之別、為合力知行弐百石可進候、於末代不可有相違者也、仍状如件	天正八九月廿五日	不干斎宗空判・夢斎宗盛判		小坂坊御同宿中(異筆:右二篇蔵在高野山小坂坊)
親之跡目候間、如此知行申付候、	天正九四月廿二日	藤吉郎秀吉・次秀勝(花押)		野村弥八郎殿
於貴命ハ、速退城可申時ニハ、高蒙安土連、本領安堵宜可致沙汰、仍之御答申入候	十一月十五日	羽柴筑前守・池田勝九郎		安宅河内守殿
雑末申通候、依　御内儀令啓連候、抑近年者御出上故、御不通之様候キ、殊更去年	霜月廿七日	佐野大炊頭為綱(花押)・小曽禰右馬允風盛(花押)		太田美濃守殿
井原之郷名主屋敷事、縁谷三河守知行ニ如持候屋敷半分宛、井藤平左衛門与銭弦	午三月廿九日	恒岡(花押)・佐枝(花押)		牛村助十郎参
御厨之内須走之郷、寄地下人可被走廻、然上、富士参詣之事、如先規可相定之条	午四月廿五日	忠次・使榎部小十郎		洲走郷中
先日八示預候、如仰今度之不慮無是非次第ニ候、其ニ付而京都可被打上存候、其	六月十四日	石河伯書守数正(花押)・本田平八郎忠勝(花押)		吉村文吉郎御宿所
本領、五拾貫文、江慈、三拾貫文、在橋之郷、天大恵入、三貫五百文、小瀬村郷	天正十年壬午六月十七日	松五郎高例・曽丁昌世利・岡次正嗣例		薩摩助悉殿
知行方之書立、一ヶ所、内山之郷、一ヶ所、平賀之郷、一ヶ所、中込之郷。但、此内	六月廿二日	北条陸奥守氏照(花押)・藤田安房守氏邦(花押)		俳野井九郎殿
証文。一所、小坂之郷。一所、諏方塩尻。以上。右、此度高島衆可抽忠信由、為使者	七月十日	氏照(花押)・氏邦(花押)		橘口木工左衛門尉殿
御注進之趣則申上候処、一段御機嫌不及申候、何方もの様之成合候様、目出成儀	八月十四日	阿善九・本弥八・大新十		本作左御報
定。一、合七貫文、堀橋之内、手作、一、合拾三貫文、福地之郷。一、合弐貫文、入	天正十年壬午八月廿一日	保科正直(花押)・内藤昌月(花押)		堀橋彦介殿
甲州曽禰堀内分、慈照寺寄進共三四拾貫文、駿州改替慈照寺分之内十二貫文、并	九月十九日	大久保新十郎・成瀬吉右衛門		曽禰松千代殿
薗戸谷荘関王領并同所諏訪神領之事、右、先地頭朝比奈八郎兵衛殿知和之、彼	天正十卯未十月九日	高尾野十郎昌元・朝比奈新九郎昌忠		櫛宜蔵大夫殿
今度　三介様御家督儀、各令賀走候成御忠候付而、御分国諸侍不残罷出御礼申上	極月十一日	羽筑秀吉・惟玉郎左長秀・池勝恒興		遠山佐渡守殿・同半左衛門殿御宿所
今度三介様御家督之儀各賀走申被成御忠候付而、御分国諸侍不残罷出御礼申上	十二月廿一日	羽筑秀吉(花押影)・惟玉郎左長秀(花押影)・池勝三恒興(花押影)		和田助右衛門尉殿
三介殿様・三七殿様御間之儀御無事相澄申候条、其御心得尤候、然者其方へ尾左	十二月廿六日	羽筑秀吉(花押)・惟玉郎左長秀(花押)・池勝恒興(花押)		小島殿御宿所
井原之郷水そんの地ニ御座候間、其方一人せいこいいれ、御大途御走廻、尤ニ候、	閏十二月五日	資宗(花押)・信宗(花押)		宛所欠(上書:牛村助十郎へ参　自岩付　恒岡・佐枝)
御厨入。九拾五貫七百文、山崎。百九拾貫文、ひかゝひ。弐百七拾七貫文、大わた。	月日欠	御代官、曽我又六郎(花押)・矢部甚兵衛		祖父江五郎右衛門殿・杉浦猪助殿
覚。一、景勝・家康御間柄之儀、若被仰分於在之者、筑前是非ニ可致馳走事、一、	二月七日	増田仁右衛門尉・木村弥一右衛門尉・石田佐吉		西雲寺
大浦薬師免田之事、右如前ゝ聊不可有相違、并近辺林之竹木等、仮初にも横合非	天正十一年癸未五月十二日	左衛門大夫氏勝(花押)・新八郎直重(花押)		長峯寺参御同宿中
(本文欠)	天正十一五月廿五日	依田下総守(花押)・大草丹後入道(花押)		宛所欠
日比野ノ内前野之郷。右為　御扶助被　仰付候、猶逆御礼明、高頭重而被書載　御	天正十一年八月十九日	井村彦兵衛(花押)・矢部甚兵衛(花押)・曽我良廉(花押)		坂井隼人殿
聞重之郷。小牧ゝゝの郷。右同郷為御扶助被仰付候、猶被逆御礼明、高頭重而被書	天正十一八月九日	曽我良廉(花押影)・矢部甚兵衛(花押影)・井村彦兵衛(花押影)		安井母監殿
一、赤池之郷。右為御扶助被　仰付候、尚以被逆御礼明、高頭重而被書載御判可	天正十一年八月七日	矢部甚兵衛(花押影)・曽沼兵庫(花押影)・井村彦兵衛		御大工又右衛門殿
勝幡之郷。はかゆの郷。右之両郷為御扶助被仰付候、猶又被逆御礼明、高頭重而被	八月廿八日	曽我良廉(花押影)・矢部甚兵衛(花押影)		佐渡七左衛門尉殿
小玉之郷。右為御扶助被仰付候、重而御判可被下之旨被　仰出候、恐々謹言、	八月廿八日	曽我又六(花押影)・矢部甚兵衛(花押影)		井村彦兵衛殿
野なその郷三百五拾貫文、此内百五拾貫文たあへ被参候、相残分喜七郎殿被遣候	天正十一年八月廿八日	矢部甚兵衛判・曽我兵庫判		たあ・千秋喜七郎殿
ひら野郷為御扶助被仰付候、重而御判可遣之旨御淀候条、可被得其意候、以上、	天正十一年八月廿九日	曽我兵庫(花押)・矢部甚兵衛(花押)		河野藤左衛門尉殿・坂井文助殿
一、西島、一、清水、一、あゝ池。右三郷被　仰付候、弥被逆御礼明、重而御判可被	天正十一年八月晦日	矢部甚兵衛(花押影)・曽我兵庫頭(花押)		祖父江五郎衛門殿
目録、一、松の木、一、すわき、一、上ニゝ、一、せこ、一、かゞ砂り、一、かゞの、一、ゑゞ	天正十一年九月朔日	矢部甚兵衛(花押影)・曽我兵庫頭(花押)		吉村文吉郎殿
東方。大洲、小郷。右、為御扶助被仰付候、猶御礼明之上、重而御判可被下之旨被	天正十一年九月五日	曽我又六(花押)・矢部甚兵(花押)・松庵		長田善次郎殿・長田又五郎殿
為　御扶助右田之郷被仰付候、尚被逆御礼明、追而御判可被下之旨御淀候、可成	天正十一年九月六日	矢部甚兵衛(花押影)・曽我兵庫頭(花押影)・松庵		毛利掃部助殿
いのこしの内次百貫文。右、為今御被　仰付候間、追而御判可被遣之旨御淀候、可	天正十一年九月十日	矢部甚兵衛(花押)・曽我兵庫頭(花押)・松庵(花押)		政秀寺まいゝ
いのこしの内次百貫文。右、為今御被　仰付候間、被逆御礼明、追而御判可被下之	天正十一年九月十日	矢部甚兵衛(花押影)・曽我兵庫頭(花押影)・松庵(花押)		白坂寺まいゝ
為功領猪子石之内を以百貫文被仰下候、尚日記明上御判可被下旨被仰出候、以上	天正十一年九月十日	曽我兵庫頭判・矢部甚兵衛判・松庵判		奈古堅天王坊
孟日寺之内を以舟町被　仰付候間、可被得其意候、以上、	天正十一年九月十日	曽我兵庫頭(花押)・矢部甚兵衛(花押)・松庵(花押)		孟日寺

右為御扶助被遣之候、尚追而御判可被蒙之旨御詰候、可被成其意候、已上、	天正十一年九月十日	矢部甚兵衛(花押影)・曾我兵庫頭(花押影)・松庵(花押影)	清次殿
為御扶助於熟田之内参百貫文南入江被仰付候、尚追而御判可被遣之旨御詰候、	天正十一年九月十七日	矢部甚兵衛(花押影)・長益(花押影)	弐百貫文、又右衛門殿・百貫文、又七郎殿
於日永郷内七拾貫文被成御寄進畢、猶追而御判可被遣旨候、可得其意候、已上、	天正十一年九月廿九日	矢部甚兵衛(花押影)・井村彦兵衛尉(花押影)	観音寺
為御供料弐百貫被成御寄進候上、全可有社納者也、仍如件、	天正拾一年拾月五日	曽我又六郎(花押影)・矢部甚兵衛(花押影)	熟田宮検校
かゝ田の郷、ゆの木おろし。右両郷為御扶助被仰付候、全可有知行旨被　御出候、	天正十一年拾月五日	曽我又六(花押影影)・矢部甚兵衛(花押影影)	雑賀猿殿
雇原郷灰下村、石切塩敷之間分、如前々無相違被下候、然上四分一人足諸役共御	天正十一　末十月七日	小栗二右衛門(黒印「讃」)・倉橋三郎五郎(黒印「印文未詳」)・名倉若狭(花押)	石切市右衛門殿
瀬戸谷荘間天王領并同所御坊神領之事。右、先地頭朝比奈八郎兵衛殿如知之、彼	天正十一巻末十月九日	高尾慧十郎昌元(花押影)・朝比奈新九郎昌忠(花押)	櫛笥蔵大夫殿
堂、六呂見内、四町、観音寺、本知、名ゞ、壱町、小作、藤七・七郎兵衛、同、壱町、	天正十一年拾月廿三日	矢部甚兵衛判・津小平次判・藤夕判	宛所欠
駿州中田之内上島郷医王寺塩敷之事。合五貫七百文、但、門前沙弥塩敷三間共二	天正十一　癸未年十二月朔日	名倉若狭(花押)・倉橋三郎五郎(黒印「印文未詳」)・小栗二右衛門尉(黒印「讃」)	駿光院
本某寺御門徒之儀度々御理之条中間、如前々相済候、雖然三州之内七ヶ寺之儀者	極月廿日	酒井左衛門尉忠次・石川伯耆守数正・石河日向守家成	下間刑部卿法眼人々御中
揃書無之也。本段所塩敷、大宮司殿道より西、かふ木門之内返渡申候、御請取可有	天正十一　癸未年十二月卅日	井出蓋之助正次(花押)・清彦三郎徳長(花押)	段所殿参
迫而定而阿善九申候、半左衛門殿へ別而可申候へ共、急候間御報不申候、非如在	三月十八日	西小左衛門尉吉次(花押)・阿善九郎正勝(花押)	遠佐渡守殿御報
今度羽柴忠之御付而、為可加成敗、西国・北国按合軍行候間、本意軍候、然者一日	三月廿一日	御諱御判・信雄判	保田花王院・寒川殿
如貴札、其以来存申連候処、御慈善一入御珍敷合拝見候、仍甫衆出張、就之在宮	卯月十三日	江尾玄策(花押)・長山信儀守通兄(花押)	多劫貴報入々御中
無御心元存、折々外ふまゝ主ゝ人を遣候へ共、不敢参着能越申候、一段迷惑申候	五月廿六日	雄吉(花押)・三吉(花押)	宛所欠
堂、山内■石衛門尉、大塩金左衛門尉、古田彦三郎、木下勘解由、一柳市介、ひさ	六月二日	秀勝(花押)・秀吉(花押)	宛所欠
一摂一可聞立在々、一、方上郷、一、大堂寺、一、八幡、一、越後島、一、ふち牛ゟ	申八月廿六日	駒帯(黒印「印文未詳」)・坂豊(黒印「印文未詳」)	右之郷年寄衆
尾州之内六角堂一円、為替知先百貫被宛行旨候間、全可有領知者也、仍如件、	天正拾次九月十日	曽我又六郎(花押)・朝夕(花押)・松庵(花押)	宛所欠
英比・乙川・亀崎三郷之儀、為御扶助被　仰付候条、全可有所務之状如件、	天正拾次九月十日	曽我又六郎書判・飯田半兵衛書判	長田弥左衛門殿
北伊勢朝明郡五原五郷之内四百貫文、為替知被宛行之旨、被　仰出者也、仍如件	天正拾次九月十日	曽我又六郎(花押)・朝夕(花押)・松庵(花押)	長崎弥左衛門殿
北伊勢横郡東方之郷之内を以、替知之内弐百貫文宛被仰付之旨候間、全可有知	天正拾次九月十日	曽我又六郎(花押)・朝夕(花押)・松庵(花押)	長田善二郎殿・長田又五郎殿
北伊勢伊都郡内大批之郷・同郡赤尾鵜合八百貫文、替知之内、先石分被仰付候、	天正拾次九月十一日	曽我又六郎(花押影)・朝夕(花押影)・松庵(花押影)	津田清次殿
朝明郡、小島郷茂名五拾貫、同郡、田口百十貫、同郡、垂坂郷五拾貫、合四百貫分	天正拾次十月廿六日	曽我又六郎(花押影)・朝夕(花押影)・松庵(花押影)	高木種右衛門殿・高木勝兵衛殿
先知行一為御加増讃口郷内百五十貫被　仰付之間、可有御知行候、御帰城次第御	正月十一日	朝夕勝長(花押影影)・松庵友者(花押影影)	富田又七郎殿
禅興寺御福世之儀、相公様縫御在位無之候、公結任先現讃歳候、　御当家御相続	二月十五日	芳春院松獅(花押影)・一色右衛門佐氏久(花押影影)・町野備中守義俊(花押影影)・小笠原氏庫頭氏長(花押影)・高修理亮氏師(花押影影)・築田右馬助助実(花押影影)・永仙院昌伊(花押影)	徃垣和尚
就于　岡山三百年忌、赦給五通、　相公様縫御在位無之候、中興讃歳候、御当家御相続	六月三日	芳春院昌寿(花押影影)・一色右衛門佐氏久(花押影影)・町野太郎義俊(花押影影)・小笠原氏庫頭氏長(花押影影)・高修理亮氏師(花押影影)・築田右馬助助実(花押影影)・永仙院昌伊(花押影影)	正続院衆中
此度南豊出張、当地へ取懸候時分、於江家口二身労、不及是非候、忠信忝候、以来	天正十三年酉十二月廿日	鶴雄・国綱(花押影)・義久(花押影影)	石崎次郎左衛門とのゝ
此度南豊出張、当地へ取懸候時分、於江家口二身労、不及是非候、忠信忝候、以来	天正十三年酉十二月廿日	国綱(花押影影)・義久(花押影影)	宛所欠
今度証入之儀付而従平七・成吉其断被申候処、御恕図之外者き衆まそ、妻子駿州	正月十三日	忠隣判・正信判	宛所欠(上書:武河衆中御宿所　従岡崎大新十郎・本
今度、証入之儀付而、従平七、成吉、其行被申処、御恕図之外、者き衆まそ妻子、駿	正月十三日	忠清判・正信判	宛所欠(上書:武川衆中御宿所　従岡崎大新十郎・本
就佐野之儀被成、御書候、彼家中無別儀之段、太賀　思召候、弥御入魂衆宜之由、	(異筆:考天正十四年也)五月	長盛(花押影影)・三成(花押影影)	塩谷弥六殿御宿所
以上。大宮浅間御供塩敷年貢壱貫八拾文之分、御奉行衆申候て、御年貢引可申候	成十月廿日	鷹国(黒印「印文未詳」)・清彦(黒印「印文未詳」)・井甚(黒印「印文未詳」)	清長参
雇原西方圷付。いつゞ河、壱石弐斗五升三合、与慈善門。同所、四斗弐升四合三分	丁亥卯月五日	宗白(花押)・内々(花押)	青木市右衛門殿
敬白、起請文。一、是形様へ如前々無二御忠信可有之由、以御誓書被御申上候条	天正拾五年丁亥卯月七日	芳賀高継(血判・花押影)	笠間殿御報
伊久美郷之内大間村、先々歩夫候へ共、只今郷中大破に付而指置候、いゝ様にも	天正十五亥四月十七日	日付上に(黒印「印文未詳」)岡九嗣(花押)・剣次正長(花押)	右近大郎殿・平内三郎殿
古府内・桐ヶ作百姓木草取野、壱三里・横壱里亥年之如　御印判、入籠二木草可取	己丑十二月廿日	越後守(花押)・下野守(花押)・右馬助(花押)・左近悉(花押)	上原一番とのゝ(上書:桐ヶ作上原一番とのゝ・臨宿中)
全功書刊。奥山蔵竜蔵寺御参賀文所、塩鍋、同門前西東山河、如前々為大成全功	天正十五丁亥極月吉日	近藤平右衛門秀用印、使薬流宗勲・松井宗十郎	方広寺まいる
南会目善戸分之内、飯田善左衛門尉缺落之由候、彼名田次十貫文之所、其方相拘	戊子二月廿一日	左馬允(花押)・林六郎左衛門尉(花押)・木村信義守(花押)・興津太郎兵衛(花押)	藤岡十兵衛殿へ
急度以検撰申候、仍敬材太之儀付、公私雑々被入御精敬故、時宜可然相謀申、後	六月十七日	本能寺空善〇・勝慶寺了意〇・上宮寺尊祐〇・五ヶ寺〇	下間刑部卿法印御房御宿所
権現以有之城物之事。壱郭、大鉄砲。五十、小鉄砲。五十、大鉄砲五、但、小玉三	子之給月十三日	江阪又兵衛(花押)・松本二平(花押)	宛所欠
松井田二而手作分無之由候間、五ヶ村之内金井佐渡守年来抱候三百疋之所、永遠	戊子十二月十二日	駿河守政繁(花押)・新四郎直昌(花押)	外郎源左衛門尉殿
為夜襲名代可有御下之由、御大義無申計候、其付而馬・人足之儀被仰越候、尤有	天正十七三月五日	三ヶ寺の判・惣坊主衆	下間刑部卿法印御房
覚。一、従京都御当方年内可為御上洛旨、御使始終之様子、雖無御得心候、此度	六月廿二日	松左(花押)・同尼(花押)	宛所欠
就其表之儀被成御書候、何茂因々無事二被仰付候処、其表損之様体相立聞候、対	十月五日	増田右衛門尉長盛在判・石田治部少輔三成在判	那須太郎殿
先年御しんふかゝ之剱をさゝい申こけ而、左様之意恨を以、此度筋者しきよくの儀被	天正十七己丑十一月九日	長門(花押)・藤十郎(花押)・与三左衛門(花押)・ちふさへもん(花押)・せう入相義与三左衛門(花押)・同日吉八郎左衛門(花押)	大川兵庫殿・同文太郎殿参
御給書立之事。一、五百拾九者、遠州かゝなり村、一、五拾八表弐斗八升四合、横須	己丑十一月十七日	内三左衛判・長七左同・松長同	小笠原久兵衛殿
御給書立之事。州供是ハ高松御蔵へ羽紙遣、御切府、四十九俵、駿州ウトウ郷、以	己丑十一月十九日	松総書判・由々記書判・長七左書判	加藤九吉殿
御給書立之事。一、百式拾四表六升七合、遠州宇苅、法蔵寺分。一、九拾三表弐斗	己丑十一月廿四日	松弥十判・内三佐判・長七左判	松平九郎右衛門殿
迫而令啓候、北条事、年内可致上洛之旨、重ゝ被申上、其手筈相違付而、来春被成	十二月五日	長吉(花押)・利家(花押)	伊達左京大夫殿御宿所(上書:伊達左京大夫殿御宿
古府内・桐ヶ作百性木草取野、壱三里・横一里亥年之如、御印判、入籠二木草可取	己丑十二月廿日	越後守(花押)・下総守(花押)・右馬助(花押)・左近悉(花押)	(異筆:庄屋)上原一番とのゝ
凑三在是貴所角二艘之内、一そろ明後日廿二日より、桑名江被廻、直ニ駿河江被遣	十二月廿日	外甚五左雄庶(花押)・町主水方竜(花押)・玉敷馬高右(花押)	江盛御宿所
急度申入候、仍去廿九日、にゝ山、同山中之城御貴被成、中納言殿山中城御貴陽	卯月五日	石川伊賀守光重(花押)・小出播磨守秀政(花押)・伊藤加賀守秀勝(花押)・寺沢越中守広政(花押)・蒔田相模守久勝(花押)	大阪御留守居衆中
西浦七ヶ村・江梨おゝそ年貢、前々ゟ無之由承候へハ、今度ゝ御因ふたつの候儀候	天正十八年卯月十六日	浅野弾正少弼長吉(花押影影影影影影)・大北源三郎経(花押)	大川兵庫殿・同隼人殿参御宿所
中郡白根表ニ京勢地衆集居所打取、敵一人討捕、走廻之至、忠信感悦ニ候、弥可	天正十八庚寅四月十七日	大和守(花押)・御検使大藤長門守(花押)	佐藤左左衛門殿
中郡白根表ニ京勢地衆集居所打取、敵一人討捕、走廻至、忠信感悦候、弥可抽粉	天正十八年庚寅四月十七日	大和守(花押)・御検使大藤長門守(花押)	井上源三郎殿
此度こやにて大川兵庫殿ゟをゝをぬすミとり申候、就其御せいはい被成候処を、長	寅四月十八日	長嵜、とう入藤十郎(略押)・同な■■(略押)・平左衛門(略押)・同平右衛門・同善へもん・同二郎右衛門(略押)	杉新平殿・大北源三郎殿・大川兵庫殿参
以上。一、修善寺。一、於修善寺作毛江サゝハルへカラス。一、諸道具百姓持少行候	四月十八日	浅弾正内、杉新平(花押)・大北源三郎(花押)	福井兵部ノ参ル
一、於出城之上、兼日如申定、毛頭表裏有之間敷事。一、於鎌倉在寺之内、横谷井	天正十八四月廿三日	脇坂中務少輔安治(花押)・安国寺恵瓊(花押)	清水上野介殿・高橋郷左衛門尉殿・其外城衆中
未代在郷御被官ニ認成候、似合之御用等少も如在申間敷候、為後日一筆を以申上	天正十八年寅四月廿三日	弥六(花押)・藤五郎(花押)	大河殿参
当所へ御朱印取次候而遣候間、狼藉候族有間敷候、若違犯之輩於有之者、此方へ	五月朔日	浅野弾正少弼長吉(花押影影)・木村常陸介一(花押)	宛所欠
急度令申候、仍八州諸城事、為可被賞殺、越後宰相中将、加賀宰相、木村常陸介、	五月廿七日	羽柴秀郷侍従秀一判・羽柴岐阜侍従輝政判・羽柴丹後少将――判	北条左京大夫殿御宿所
郡次ニ在所へ鑑移、麦作収納由、従津久井之見帰ニ下鷹坊狼藉、堅令停止者也、	寅六月二日	内藤(朱印「印文未詳」)・御検使大長(黒印「福」)	宮本野之内令和泉之村名主中
郡次ニ在所へ鑑移、麦作収納之由、自津久井之見軽以下鷹坊狼藉、堅令停止者也、	六月二日	内藤(朱印「印文未詳」)・御検使大長(黒印「福」)	広川之内名主中
墓年不思儀之以筋目、手前ニ御感忍御子孫有繁昌、此度御本意候、有難珍重ニ存	庚寅六月四日	治広(花押)・照親(花押)	宛所欠(上書:残悦斎参人ゝ　治部太輔)
武州/内一ふふたの下地。大はたわけ。和田村。八日市村。禁制。一、当軍勢鷹坊狼藉	天正十八年六月廿四日	常陸介(花押)・孫四郎(花押)	宛所欠
定。一、殺生禁断之事。一、甲乙之人馬乗通行之事。一、境内山林竹木膜に截採事	天正十八年六月廿四日	常陸介(花押)・孫四郎(花押)	宛所欠
禁制、相模国見壇之郷。一、軍勢甲乙人乱妨狼藉之事。一、放火之事。一、対地下	天正十八年六月廿四日	本田中務小輔(花押)・平岩七之助(花押)・戸田三郎右衛門尉(花押)・島居彦右衛門尉(花押)	宛所欠
定。一、鉄砲城請取者共、鷹坊無道之儀、可為一銭切事。一、地衆与喧嘩口論之儀	天正十八年六月廿四日	常陸介(花押影影)・弾正少弼(花押影影)・筑前守(花押影影)	宛所欠
定　忍之内■■■、当寺之儀、急度令還住、昼夜勤行如前々可其沙汰、若種々非之	天正十八年七月十三日	太村常陸介(花押影)・浅野弾正少弼(花押影影)	宛所欠
急度申入候、仍氏直高野へ被疑上候、於其地弁之儀被申付候て、急々へ可被遣候	七月十四日	■■■・■■梅心判	加藤隼人殿・同文八殿人々御中
鶴岡八幡宮共并門、何も被成御建立候、其内先ゟかゝふき事被仰出候、如前ゝ竹木・	七月十七日	片市正直倫(花押影)・早主馬頭長政(花押影)	三浦・小机・鎌倉地下人中
御知行書立。合五百石者、ふかやゝ之内■■■■■、新■郷之内。以上。右之分、可	卯六月六日	伊奈熊蔵判・大久保十兵衛判	毛呂仙千代殿
御知行書立。一、千百式拾五石者、上総内おたき近辺、寺崎之郷、已上。右分、可	天正十九年七月吉日	伊奈熊蔵(花押)・大久保十兵衛(黒印)	前田源六郎殿
一、百石、五ツ次分弐リン、深庄村。一、百拾七石七ヨ三升九合八夕、四ツ三リン、た	辰八十一月九日	篠山四郎兵衛(花押)・覚善兵衛(花押影影影影影影